

- この特報は、6/16 発行の「もも・ネクタリン特報No.⑦」の薬剤散布（散布目安は、7/5～10 頃）が終わってから行なう防除を掲載しています。特報No.⑦の内容を再度、ご確認ください。
- **【せん孔細菌病】**の感染拡大が心配されます。  
※引き続き枝病斑除去、早期袋掛けを徹底し感染予防に努めましょう。
- 次面には、栽培管理作業・かん水について記載しています。再度ご確認ください。

## もも

### 第 10 回薬剤散布

散布時期	7 / 20 ~ 25 頃 (目安となります)	◆ 散布日 : 7 月 日	
散布薬剤	水	1000 当り	◆ 散布量 : リットル
	展着剤 (ハイテンパワー)	10 ml	
	ベルコートフロアブル	50 ml (前日、3 回)	
	アーデントフロアブル	50 ml (前日、3 回)	
対象病害虫	黒星病、灰星病、ホモプシス腐敗病 シンクイムシ類、カメムシ類、アザミウマ類		
散布量	10アール当り : 500 リットル		
注意事項	①有袋品種は除袋後に散布する。 ②カイガラムシ類対策 : 除袋後の散布にコルト顆粒水和剤 2,000 倍 (前日、3 回) を加用する。		

## ネクタリン

### 第 10 回薬剤散布

散布時期	7 / 20 ~ 25 頃 (目安となります)	◆ 散布日 : 7 月 日	
散布薬剤	水	1000 当り	◆ 散布量 : リットル
	展着剤 (ハイテンパワー)	10 ml	
	ベルコートフロアブル	50 ml (前日、2 回)	
	アーデントフロアブル	50 ml (前日、3 回)	
対象病害虫	黒星病、灰星病、ホモプシス腐敗病 シンクイムシ類、カメムシ類、アザミウマ類		
散布量	10アール当り : 500 リットル		

#### 次回特報配布

発行予定日 : 7 月 14 日

8 月上旬の薬剤散布について

散布日目安 : 8 月 5 ~ 10 日頃

栽培管理作業・収穫期について

**せん孔細菌病対策の一つとして袋掛け（有袋栽培）を実施して下さい。**  
 （袋掛けが完了していない園地では、早急に袋掛けを行ってください）

**除袋 ～ 収穫までの流れ**

除袋（収穫 10～14 日前） ⇒ 収穫前最終防除 ⇒ 反射マルチ（収穫 7～10 日前） ⇒ 収穫  
 （葉摘みは、除袋期から反射マルチを敷くまでに適宜実施する）

◆ **除袋（収穫開始予想は、平年よりやや早くなる見込みです。）**

	品 種	除袋 終了目安
着色しやすい品種	白鳳・あかつき・なつっこ・川中島白鳳・川中島白桃・黄金桃など	収穫 10 日前
着色しにくい品種	山根白桃・志賀白桃・白桃・白根白桃・ゴールデンピーチ・秀峰など	収穫 10～14 日前

- ① 除袋適期：果実の地色が抜け、やや緑色が残っている時期。地色の緑色が完全に抜け、果面が黄白色では遅い。
- ② 果実温が低い時間帯に除袋を行うと日焼けを生じやすいため、早朝に除袋は行わない。
- ③ 2重袋を使用している場合は、外紙を除いて中袋を残して収穫する。  
 ⇒ 成熟が早まる傾向があるため、除袋が遅れないよう注意する。除袋が遅れると、鮮明な着色に仕上がらない。
- ④ 除袋後は果実に密着している葉を摘み取り、着色のムラを防ぐ。（極端な葉摘みはしないこと）
- ⑤ 除袋時期に入って天候不順で日照不足が続くときは、2日くらい早めに除袋する。

◆ **反射マルチ**

反射マルチは白系マルチ【タイベック】【パールライトWS】等を使用する。

着色のしやすい品種＝収穫 7～10 日前	着色しにくい品種＝収穫 10～14 日前
[使用上の注意] 1. 徒長枝切りや樹冠の混みあっている枝を整理し、園全体の日照条件をよくする。（暗い園は効果が少ない） 2. 事前に園内の除草や整地を行ない、地面を平らにする。 3. 反射マルチは風で飛ばないように固定する。 4. 着色が食味より先行するため、早もぎになりやすいので収穫は熟度を確認してから行なう。	

◆ **葉摘み**

果実周辺の密着している 2～3 枚（多くても 5～6 枚程度まで）を摘む。  
 葉摘み開始時期 ⇒ 有袋：除袋期前後から実施      無袋：着色始めから実施  
 ◎果実の鮮度保持のため、果実温の低い時間帯に収穫する。（早朝から午前 8 時ごろまでが望ましい）  
 ◎収穫の際は、果頂部に指先をかけないように手のひらを果頂部にあて、指先は果梗部の近くの肩にかけて、ゆっくりと動かして採取する。

◆ **かん水について**

- ・ 7 日程度、雨が降らない場合は、右表を参考にかん水を行なう。
- ・ 10 a 当たり 1 ミリのかん水を行うには、水量 1 t が必要です。
- ・ 保水性の低い砂質土壌や根域の浅い土壌では、1 回のかん水量を少なくし、間隔を短くする。
- ・ 水源が少ない場合は、細根があると思われる部分に重点的にかん水する。

もも 時期別のかん水量の目安（成木）

時期	10 a 当たり かん水量
5～8 月(成熟 10 日前まで)	20 ミリ程度
成熟 10 日前～成熟期	5 ミリ程度